

平成 22 年 度
施 政 方 針



三 豊 市

平成 22 年第 1 回三豊市議会定例会にあたり、平成 22 年度の予算案をはじめ、諸議案のご審議をお願い申し上げますに先立ち、私の市政運営に取り組む所信の一端を申し上げ、市民の皆様方並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

市政運営の所信

地方自治は今、変革の時代に突入しています。

国や県に何かをしてもらおう、何とかしてくれるだろう、と依存し期待する時代は終わりを告げ、私たち一人ひとりの意志と責任による新しい時代づくりが始まろうとしております。

これまでの、中央集権体制による地方自治は、いち早く戦後復興を成し得るため、「経済の復興」と「福祉の最低基準の達成」という国家方針の下、一方でその地域の遺伝子ともいえる生活文化や習慣までも、全国一律画一的な施策により、組み替えた国づくりでもありました。

その結果、世界が驚く速さで戦後復興を成し遂げたものの、一方では、地方公共団体はあっても地方自治体は無いといわれるような現象も引き起こしました。

平成元年にベルリンの壁が崩壊し、東西冷戦が終結して以来、我が国ではグローバル化が急速に進展し、中央集権体制が対応力を失い、行き詰まりを見せる中、個性と創造性に富んだローカルコミュニティの重要性が再認識されはじめました。これが地域主権に基づく新しい国づくりの方向だと思えます。

平成 22 年度は、三豊市にとっても、重要な変革の機会であると捉えております。確かに地方経済は疲弊し、閉塞感に包まれておりますが、こういう時こそ、積極的に新しい人脈、新しい技術、新しいマーケットを求めて、次世代の明日へと繋げる「ふるさと三豊」づくりに最善を尽くさなければなりません。

今回の選挙で、前線を任された市議会の皆様や私は、改めて三豊市民に忠誠を誓い、覚悟をもって、既成概念にとらわれず、新しい時代づくりに挑戦しなければなりません。

そして、役割の終わったもの、硬直化しているものは、勇気を持って大胆に廃止することも考えなければなりません。若者にツケを残す先送りや無責任な行為は許されるはずもなく、批判のみ受ける厳しい仕事ですが、終着駅をつくる努力も怠ってはなりません。

当初予算の概要

未曾有の経済危機に対し、臨時交付金などによる緊急経済危機対策が実施され、また、新政権の主要施策として「子ども手当支給事業」などの事業が開始されており、新総合計画の財政見通しに対して、短期的には財政規模が膨張しております。

しかしながら、臨時交付金による緊急経済危機対策事業については、原則として、新総合計画に盛り込んだ事業の前倒しで取り組んでいるところであり、財政運用につきましては、財政規律を意識して、計画性を失うことなく慎重に対応して参ります。

このような方針の下に編成した平成22年度一般会計当初予算は、歳入歳出268億円とするものであり、以下、新総合計画に示す6つの基本目標ごとに、その概要をご説明申し上げます。

活気にあふれ、産業が躍動するまち

産業が躍動することは、若者に夢と希望を与える最大の贈り物であります。産業振興は三豊市づくりの大きな柱であり、あらゆる可能性に攻めの姿勢で臨みます。そして、時代にヒットせず、うまく行かない企画については、速やかに撤退します。

まず、農業・水産業につきましては、昨年度、農業振興に対して 3 億円、水産振興に対して 5 千万円の基金を設置いたしました。これらの基金を、生産振興へと繋げる施策を早急に生み出したいと考えております。

笠田高校では、有機肥料による農産物のブランド化、野菜ジュースなどの研究もされており、行政としてできるだけサポートをいたします。

農産物、水産物及び各種加工品などの販売につきましては、既存のマーケットが縮小一方でありますので、関係者と協議しながら、インターネットによる多様な販売方法など、新しいマーケットづくりの研究も行い、実践できるものには挑戦して参ります。

農地の荒廃化対策の一環として、関係者との十分な合意形成を図りつつ、農業への企業参入につきましても検討を始めます。

バイオスタウン事業につきましては、平成 22 年度に認定を受けるよう取り組んでおります。

主な事業メニューとしては、竹資源や、家庭、事業所ごみなど、多様なバイオマスを、繊維化、プラスチック化、固形燃料化、堆肥・飼料化などの事業化に向け、企業、大学との連携による研究・検討を進めます。

工業振興につきましては、これまで企業誘致を主体に取り組んでまいりましたが、平成 21 年度から、それに加えて地元の中小企業振興事業に全力で取り組んでおり、昨年度、1 億円の基金を設置いたしました。

平成 22 年度からは、この基金を活用した中小企業振興に積極的に取り組むとともに、他の市には無い官学連携を実現している香川高専詫間との連携をさらに強化します。また、「三豊市ものづくり大賞」やマッチング事業、経営相談業務なども継続いたします。

商業振興につきましては、様々なアイデアを出し合い、商品券の利用拡大を図ります。

仁尾マリーナにつきましては、緊急経済危機対策などにより施設の抜本改修を行いましたので、この機能を最大限に活用すべく、三豊市が発起人の一人となり、環瀬戸内圏域でマリーナなどを持つ自治体に呼びかけ、新しい自治体レベルの東西南北の経済交流を起こすべく、「瀬戸内クルージングサミット」の開催を進めます。

観光振興につきましては、観光協会の活動を支援します。また、文化協会や文化財保護協会と協力して、三豊市の歴史文化を一点集中で発信します。平成 22 年度は、「平城京と三豊」と、荘内半島箱崎の沖に海援隊のいろは丸が沈没し眠っていますので、「坂本龍馬と三豊」をテーマに発信をいたします。

豊かな自然と共生し、環境にやさしいまち

ごみ処理につきましては、「ごみはすべて資源である」という考え方の下、平成 20 年 10 月から開始した新しい分別収集と市民の皆様のご協力により、ごみの減量化は順調に進んでおります。

今後は、ごみ処理技術検討委員会の答申を踏まえ、処理方式や施設の規模、配置などについて、民間技術の可能性の検討、場所の問題等を勘察しながら、市議会や広域と議論を重ねて、柔軟に検討を進めます。

環境に対する負荷の少ない社会を実現するための施策として、住宅用太陽光発電システム設置補助事業や浄化槽の普及推進に取り組みます。

火葬場の整備につきましては、引き続き、新火葬場の整備に関する検討を進めます。

防災行政無線方式による情報伝達システムの整備につきましては、平成 23 年度の完成に向け、計画どおり取り組みます。

コミュニティバス運行事業につきましては、開業から 3 年目を迎え、全ての路線で維持基準をクリアして運行をしており、今後とも、市民の足として定着するよう取り組んでまいります。

水道事業につきましては、引き続き安定的な給水体制の整備・維持を図ります。

人々が助け合う、安全・安心なまち

消防団組織につきましては、本年 2 月に編成いたしました消防団組織の再編計画に基づき、地域の実情に即した能力の高い体制に順次移行するよう調整を開始いたします。

自主防災組織につきましては、自治会や職場での整備充実を進めるとともに、中学生・高校生も参加する幅広い年代層による、市民総ぐるみ体制についても検討を行いたいと考えております。

交通安全につきましては、意識の高揚、交通マナーの向上に努めるとともに、交通安全施設の整備、街頭指導などを実施いたします。

防犯対策につきましては、グリーンパトロールなど、市民参加による積極的な活動をいただいておりますので、さらに防犯意識の普及や警察機関との連携強化を進めます。

人々が支えあい、健康でいきいきと暮らせるまち

子育て支援は、今日三豊市まちづくりの大きな柱であると考えます。

新しい施策としては、子育てホームヘルパーを設置し、出産後間もない母子の育児支援を実施いたします。

放課後児童クラブの補助ボランティアとして、地元の大学と連携し、研修・資格取得などを行っていただき、官・学・民が一体となった活動を行うためのパイロット事業を実施いたします。

乳幼児医療費無料化を拡充し、10 月頃をめどに、中学校卒業までの医療費を無料化いたします。

遺児年金制度を抜本的に見直し、拡充いたします。

各種市長杯をさらに充実させるなど、先手の福祉事業を充実させるともに、社会福祉協議会を中心に高齢者を地域全体で支えるネットワーク整備事業を実施いたします。

豊かな心を育み、文化を発信するまち

大規模災害は必ず来るという考え方の下、学校耐震化事業については計画的に取り組んでいるところであり、早期完了に向け事業を継続いたします。また、検討をしておりました三野保育所につきましては、本年度に施設整備を行います。

幼稚園における預かり保育につきましては、引き続き市内 20 園全てにおいて実施いたします。

公民館活動につきましては、市民力により年々活発な活動へと発展しており、今後とも、地域の学習素材を活かし、特色のある活動に取り組みます。

豊中庁舎跡地整備事業として進めております「市民交流センター」の整備につきましては、早期に供用開始できるよう整備を進めます。

文化協会や文化財保護協会の活動、体協など各種のスポーツ行事等につきましては、多くの市民の皆様方の参加を得て、次第に充実されておりますが、さらに自立した活動に発展するよう支援を行います。

また、日本史最大の出来事である太平洋戦争の体験者が相当高齢化されてきましたので、貴重な証言等を資料化すべく、「太平洋戦争と三豊」について資料化の検討を始めます。

青少年の健全育成につきましては、引き続き、相談事業や環境浄化活動、不審者対策などに取り組みます。

宝山湖公園の整備につきましては、平成 21 年度から引き続き、管理棟やフェンス、駐車場の整備に取り組むとともに、安定的な管理運営体制を確立するための検討を行います。

ともに考え行動する、自らが創るまち

行財政改革につきましては、これまで最重点課題として取り組んできたところでありますが、まだまだ市民の皆様方からの期待は大いところであり、税金の有効な使い方の検証として、事業の外部評価制度に本格的に取り組み、「始めたら止まらない」という批判もある行政体質を改善いたします。

全国に沢山おられる三豊市出身の皆様方、とりわけ関西、関東との交流を図り、「三豊ふるさと会」の整備に取り組み、三豊市物産の新しいマーケット開拓のため、また、IターンUターンの促進のためのネットワークを拡大し、内外からの三豊市サポート体制づくりを進めます。

三豊市は、まだまだ自治体としての知名度が不足しております。ありとあらゆる機会を利用し、知名度の拡大に努めます。

地域審議会につきましては、自治会長会、商工会、観光協会、社協、体協、文化協会、公民館、また各市民団体の一体化が進み、テーマごとの話し合いが可能となりました。今後は私はじめ、副市長、部長などが参加した、市民が自由に参加できる「市民対話集会」を開催し、その効果を検証したうえで、議会で議論をお願いしたいと考えております。

新たに、自治会館の建設補助制度を創設し、活発な自治会活動を支援いたします。

変化の激しい時代のまちづくりにおいては、行政と市民の皆様との情報の共有化が不可欠な要素と考えますので、市民対話集会に加えて無線放送などで年4回、広報紙で年2回をめぐり、市長報告を行います。

むすび

古い中国に、人生を冬、春、夏、秋の4つに分けて考える思想があります。シンボルカラーは、それぞれ黒、青、赤、白、シンボルアニマルは亀、龍、孔雀、虎で、今日では、玄武、青龍、朱雀、白虎として知られているものです。

合併以来4年間、三豊市は玄武の時代、つまり、暗い土の中で力を養い春を待つ時代でした。今後の4年間は、失敗を恐れず未来に旺盛に立ち向かう青龍の時代の到来だと考えます。

過ぎ去りし日々を懐かしみず、行く手は遠く険しくとも、目標を見定め、夢の実現に向かって一步前に進み、自分たち以上に次世代のために意識して、あらゆる可能性に挑戦を試みる時代であります。

住んで良かった、住んでみたいと思える三豊市は、一人ひとりが尊重され、自立心とやさしさに満ちた三豊市であり、みんなで支えあう「地域貢献型社会三豊市」だと思います。

やさしさに包まれ、みんなが幸せを感じることのできる、ふるさと三豊市づくりのため、市民の皆様と共に力を合わせ、全力を尽くして取り組みます。議員各位、そして三豊市民の皆様方のご理解とご支援を心からお願い申し上げます、所信表明とさせていただきます。